

ネットいじめ目撃者の対処行動チェックリストの作成

黒川 雅幸（愛知教育大学教育学部）

本研究の目的は、ネットいじめ目撃者の対処行動チェックリストを作成することが目的であった。研究1では、小学校教師80名と中学校教師94名を対象に質問紙調査を実施した。児童・生徒がネットいじめ目撃者の立場になったという仮想場面を用い、その後とられる行動について評定をしてもらった。その結果、被害擁護者の行動が最も良いと評定しており、続いて傍観者、観衆、加害援助者の順番であった。さらに、被害擁護者の中でも第3者への援助要請を最も高く評定していた。研究2では、小学校5,6年生424名、中学校1,2年生1,092名を対象に質問紙調査を実施した。児童・生徒も教師同様に、被害擁護者の行動が最も良いと評定しており、続いて傍観者、観衆、加害援助者の順番であった。教師と異なるところは、被害擁護者の中でも加害行為の制止を高く評定していたところであった。児童・生徒と教師の評定を比較した結果、有意差がみられた項目は多く、教育的課題が明らかとなった。学校種差を検討したところ、中学生の方が教師と差がみられた項目が多かった。以上の結果を踏まえて、小学生版と中学生版のネットいじめ目撃者の対処行動チェックリストを作成した。

（中学生版）

「ユウ」と「ケイ」は、同じクラスです。2人は学校で話をすることはありますが、親友というほどの仲良しではありません。「ユウ」が、スマートフォンを使って、インターネットのウェブサイトを見ていたら、「ケイ」に対する書き込みを偶然見つけました。おそらく、同じ学校の誰かが書き込んだものです。書き込み内容は、「ケイ」への悪口や誹謗・中傷といった悪質なものでした。

質問1 「ユウ」がこのあとで、やってはいけないことは何でしょう？下にある「ユウの行動」のなかから8つ選びましょう。

質問2 「ユウ」がこのあとにすることで、もっともよいことは何でしょう？下にある「ユウの行動」のなかから1つ選びましょう。

「ユウの行動」

- 1 一緒になって、「ケイ」の悪口を書き込む
- 2 そのウェブサイト上で書き込んだ人にやめるよう書き込む
- 3 そのウェブサイトを楽しんで見る
- 4 「ケイ」が傷つかないように配慮して「ケイ」に話す
- 5 クラスのみんなに書き込みがあったことを広める
- 6 インターネットの事業者や警察に通報する
- 7 どうして良いか分からないので、何もしない
- 8 「ケイ」に対してもっと悪質な書き込みをする
- 9 そのウェブサイトスマートフォンなどで撮ってみんなに送る
- 10 先生、親などの大人に相談する
- 11 放っておく
- 12 自分では何もできないので、何もしない

ネットいじめ目撃者の対処行動チェックリストの作成

黒川 雅幸

愛知教育大学教育学部

要約

本研究の目的は、ネットいじめ目撃者の対処行動チェックリストを作成することが目的であった。研究1では、小学校教師80名と中学校教師94名を対象に質問紙調査を実施した。児童・生徒がネットいじめ目撃者の立場になったという仮想場面を用い、その後とられる行動について評定をしてもらった。その結果、被害擁護者の行動が最も良いと評定しており、続いて傍観者、観衆、加害援助者の順番であった。さらに、被害擁護者の中でも第3者への援助要請を最も高く評定していた。研究2では、小学校5,6年生424名、中学校1,2年生1,092名を対象に質問紙調査を実施した。児童・生徒も教師同様に、被害擁護者の行動が最も良いと評定しており、続いて傍観者、観衆、加害援助者の順番であった。教師と異なるところは、被害擁護者の中でも加害行為の制止を高く評定していたところであった。児童・生徒と教師の評定を比較した結果、有意差がみられた項目は多く、教育的課題が明らかとなった。学校種差を検討したところ、中学生の方が教師と差がみられた項目が多かった。以上の結果を踏まえて、小学生版と中学生版のネットいじめ目撃者の対処行動チェックリストを作成した。

キーワード：ネットいじめ、目撃者、教師、児童・生徒

問題

平成25年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題」に関する調査では(文部科学省, 2014), 「パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる。」といういじめが、小学校で1,711件、中学校で4,835件、高等学校で2,176件報告されている。日本では、インターネットを介したいじめ(cyber bullying)は一般的に、ネットいじめと呼ばれている。ネットいじめは従来型(traditional bullying)のいじめよりも報告されている件数は少ないものの(Li, 2006), 世界の情勢をみても、増加傾向にあることが報告されており(Rigby & Smith, 2011), 今後は我が国においても増加していく可能性は十分考えられる。ネットいじめへの対応や学校および家庭における教育は、今後ますます重要になってくるだろう。

ネットいじめにおける研究は、加害者に関する研究(Hemphill, Kotevski, Tollit, Smith, Herrenkohl, Toumbourou, & Catalano, 2012; 黒川, 2010a; Mishna, Khoury-Kassabri, Gadalla, & Daciuk, 2012; 内海, 2010)や、被害者の心理的状态に関する研究(Bonanno & Hymel, 2013; 黒川, 2010b; Sontag, Clemans, Graber, & Lyndon, 2011), 被害者の援助要請に関する

研究(藤・吉田, 2014), などが行われてきた。しかし、いじめは集団で起きる現象であり、加害者、被害者だけではなく、それをとりまく観衆、傍観者が存在することが指摘されている(森田・清永, 1986)。海外においても、いじめに関わる者について Salmivalli, Lagerspetz, Björkqvist, Österman, & Kaukiainen (1996) がいじめ加害者(bully), 被害者(victim), 加害援助者(assistant), 観衆(reinforcer), 被害擁護者(defender), 無関係者(outsider)の役割を指摘している。加害援助者とは、自分が率先して加害者になるほどではないにしても、加害者を補助的に助けていじめを行ってしまう者である。観衆は笑うなどして、いじめをはやしたてる役割にいる者である。被害擁護者は、いじめが行われているのをやめさせようと介入する立場の者である。無関係者は、いじめに関与せず、何もしない者のことである。

近年では、ネットいじめの加害者や被害者のみならず、ネットいじめに関わる周辺的な立場になる生徒の検討も行われつつある。Slonje, Smith, & Frisén (2012) では、ネットいじめにおけるいじめの目撃者の行動について検討している。この研究では、加害者がネット上に書いた情報を被害者以外の人物が目撃した時に、72%が何も行動しないのに対し、9%がそれを他の友だちに送ると回答

Table1 役割の分類

ネットいじめ目撃者の役割	下位分類	役割記号	具体的行動
加害援助者		A	一緒に書き込む、よわみをにぎる
観衆	個人的	B1	楽しんでみる、ながめる
	集団的	B2	その画面をSNSのグループのみんなに送る、その書き込みをクラスのみんなに言う
傍観者	消極的関与 対処方略なし	C1	何もしない、無視する
		C2	分からない
被害擁護者	被害者の直接的擁護 第3者への援助要請	D1	加害者へやめるように書き込む、論す、コメントで言い返す、削除する
		D2	被害者をなぐさめる、被害者に報告する
		D3	先生に言う、親に言う、被害者以外の友だちに相談する、警察に言う、通報する
その他		E	加害者が誰か調べる、加害者をつきとめる、友達と情報交換する(確認する)

し、6%がターゲットとなっている被害者に加害目的で送ると回答された。また、13%が被害者を助けるために被害者へ送ると回答された。また、黒川(印刷中)でも、小・中学生を対象にした調査で、ネットいじめを目撃した子どもがその後どのような行動をとるかを分類したところ、各立場になる前の段階の行動である情報探索行動を除くと、加害援助者、観衆、傍観者、被害擁護者の役割に分類された(Table1)。

ネットいじめでは、加害者と被害者が対面して行われることは稀であり、被害者に直接悪口などのメールを送るような場合もあるが(黒川, 2010)、被害者が加害行為を第3者からの情報提供によって知る場合もある。児童・生徒の大半はこの第3者の立場になる可能性が高いので、この立場の子どもが適切な行動をとれることは、被害者を護る視点から重要である。

そこで、本研究では、教員を対象に調査を実施し、目撃者の対処行動に関する評定をしてもらい、教員が考える望ましい対処行動について明らかにする(研究1)。また、ネットいじめ目撃時の対処行動に関する小・中学生の現状を明らかにすることで、教師とのズレから教育的課題について整理する(研究2)。研究1, 2を踏まえて、最終的に、ネットいじめ目撃者の対処行動チェックリストを作成することが目的である。

発達段階に応じて、望ましい対処行動も変わることが予測されるため、小学校と中学校とを分けて比較検討を行う。

研究1

目的

研究1では、小学校教師および中学校教師がネットいじめを目撃した子どもの対応について、どのように評価するかを明らかにする。

方法

調査対象者 小学校教師 80名(男性 33名, 女性 45名,

不明 2名)と中学校教師 94名(男性 59名, 女性 34名, 不明 1名)であった。

小学校教師の平均年齢は 44.49 歳(標準偏差 11.80)、平均勤務年数は 18.34 年(標準偏差 13.33)であった。中学校教師の平均年齢は 40.18 歳(標準偏差 11.67)、平均勤務年数は 15.66 年(標準偏差 11.68)であった。

調査方法 質問紙調査を実施した。各教員が都合のつく時に回答してもらった。回答後は、封筒に入れて封をして提出してもらった。

質問紙の構成 フェイスシートでは、年齢、性別、勤務年数について尋ねた他、回答したくない場合は回答しないで良いことを記し、回答の自由を保障した。また、質問紙への回答をもって同意とすることについて明記した。

Appendix1 を読んでもらい、「ケイ」への書き込みを見た後、「ユウ」がとる行動についてそれぞれのくらいよい／わるいと思うかを教師の立場から回答してもらった。18項目から構成されており、かなりわるい(1点)、ややわるい(2点)、よくもわるくもない(3点)、ややよい(4点)、かなりよい(5点)の5段階評定で回答してもらった。

結果

記述統計量 各項目の平均値(標準偏差)を算出した(Table2)。

小学校教師と中学校教師の差 各項目に対して、Mann-Whitney の U 検定を実施した。その結果、有意な差がみられた項目は、放っておくのみであった($p < .05$)。放っておくについては、小学校教師の方が中学校教師よりも得点が低かった。

年齢の差 小・中学校教師全体の平均年齢 42.16 歳より上の群と下の群で分けた。各項目に対して、Mann-Whitney の U 検定を実施した。その結果、有意な差がみられた項目は、「ケイ」が傷つかないように配慮して「ケイ」に話す($p < .05$)、クラスのみんなに書き込みがあったことを広める($p < .05$)、「ケイ」に書き込みがあったことを伝えて、なぐさめる($p < .01$)であった。

Table2 教師評定の平均値と標準偏差

役割	項目	平均値	標準偏差
D3	先生、親などの大人に相談する	4.86	0.46
D3	インターネットの事業者や警察に通報する	4.06	1.08
D1	そのウェブサイト上で書き込んだ人にやめるよう書き込む	3.36	1.30
D2	「ケイ」が傷つかないように配慮して「ケイ」に話す	3.31	1.12
D1	そのウェブサイト上で書き込んだ人に対して注意する	3.31	1.19
D2	「ケイ」に書き込みがあったことを伝えて、なぐさめる	2.84	1.09
E	書き込んだ人を見つけるために、情報収集をする	2.66	0.96
E	「ケイ」ではない友だちに、誰が書き込んだかを聞いてみる	2.58	1.00
C2	どうして良いか分からないので、何もしない	2.34	0.87
C2	自分では何もできないので、何もしない	2.24	0.85
C1	放っておく	2.17	0.93
C1	見て見ぬふりをする	1.95	0.86
B1	そのウェブサイトを楽しんで見る	1.28	0.52
B2	クラスみんなに書き込みがあったことを広める	1.26	0.59
B1	そのウェブサイトですぐ何が書き込まれるか楽しみに待つ	1.23	0.47
B2	そのウェブサイトスマートフォンなどで撮ってみんなに送る	1.06	0.33
A	「ケイ」に対してもっと悪質な書き込みをする	1.03	0.31
A	一緒になって、「ケイ」の悪口を書き込む	1.01	0.08

放っておく ($p < .10$) については有意傾向差がみられた。

「ケイ」が傷つかないように配慮して「ケイ」に話す、「ケイ」に書き込みがあったことを伝えて、なぐさめるについては、年齢が高い教師の方が、年齢が低い教師よりも高く評価していた。一方で、クラスみんなに書き込みがあったことを広めるや、放っておくについては、年齢が低い教師の方が、年齢が高い教師よりも高く評価していた。

考察

研究1では、小学校教師および中学校教師がネットいじめを目撃した子どもの対応について、どのように評価するかを明らかにすることが目的であった。各立場になる前の段階の行動である情報探索行動（その他）を除くと、被害擁護者を最も良いと評価しており、続いて傍観者、観衆、加害援助者の順番であった。さらに、被害擁護者の中でも第3者への援助要請を最も高く評価していた。ネットいじめは、自分たちで解決せず、教師や親などの大人に相談することが良い判断であると考えている。

一方で、被害擁護者の中でも、「ケイ」に書き込みがあったことを伝えて、なぐさめるについては、中点（3点）を下回る得点であった。「ケイ」が傷つかないように配慮して「ケイ」に話すについては、中点より高い得点であったことを踏まえると、ネットいじめの事実を被害者に伝える時には、細心の注意を払う必要があると考えているようであった。被害者を助けるために、被害状況を伝えることは、結果的に加害者の片棒を担ぐことになってしまうことにもなりかねない。場合によっては、事実を伝えないことも必要であるとの認識ももっている可能性も考えられる。

小学校教師と中学校教師の差については、放っておくのみでみられたが、それ以外の項目については有意差がみられず、大方同じような評価をしていた。また、年齢の差では、年配の教員が被害者に事実を伝えることを若い教員よりも良いと評価していた、一方で、年配の教員は若い教員よりも放っておくことや情報を拡散させることに対してより悪いと評価していた。このような差は、教師という職業に関係なく、情報に対する年代による異なった規範が存在していて、その影響を受けている可能性が考えられる。

研究2

目的

研究2では、小学生および中学生がネットいじめを目撃した時の対応について、どのように評価するかを明らかにし、研究1の調査で得られた教師の評価とのズレについても明らかにする。

方法

調査対象者 小学校5, 6年生424名（男子218名, 女子206名）、中学校1, 2年生1,092名（男子546名, 女子531名, 不明15名）であった。

調査方法 担任教師によって質問紙調査を実施した。

質問紙の構成 フェイスシートでは、学年、性別、スマートフォン（または携帯電話）の所有について尋ねた他、回答したくない場合は回答しないで良いことを記し、回答の自由を保障した。また、成績には関係がないことを明記した。

Appendix2 を読んでもらい、「ケイ」への書き込みを見た後、「ユウ」がとる行動についてそれぞれどのくらい

Table3 児童・生徒評定の平均値と標準偏差

役割	項 目	平均値	標準偏差
D3	先生、親などの大人に相談する	4.32	1.02
D1	そのウェブサイト上で書き込んだ人にやめるよう書き込む	4.12	1.09
D1	そのウェブサイト上で書き込んだ人に対して注意する	3.94	1.11
D3	インターネットの事業者や警察に通報する	3.60	1.09
D2	「ケイ」が傷つかないように配慮して「ケイ」に話す	3.53	1.06
D2	「ケイ」に書き込みがあったことを伝えて、なぐさめる	3.37	1.11
E	「ケイ」ではない友だちに、誰が書き込んだかを聞いてみる	3.19	0.96
E	書き込んだ人を見つけるために、情報収集をする	3.17	1.00
C2	どうして良いか分からないので、何もしない	2.53	0.93
C2	自分では何もできないので、何もしない	2.43	0.98
C1	放っておく	2.07	1.06
C1	見て見ぬふりをする	2.00	0.92
B2	クラスみんなに書き込みがあったことを広める	1.73	0.94
B2	そのウェブサイトスマートフォンなどで撮ってみんなに送る	1.52	0.87
B1	そのウェブサイトを楽しんで見る	1.43	0.76
B1	そのウェブサイトで今後何が書き込まれるか楽しみに待つ	1.35	0.75
A	「ケイ」に対してもっと悪質な書き込みをする	1.14	0.57
A	一緒になって、「ケイ」の悪口を書き込む	1.13	0.44

Table4 評定に関する小学生と中学生の差

役割	項 目	小学生 平均値	中学生 平均値	有意差
D3	先生、親などの大人に相談する	4.50	4.25	*
D1	そのウェブサイト上で書き込んだ人にやめるよう書き込む	4.38	4.01	*
D1	そのウェブサイト上で書き込んだ人に対して注意する	4.13	3.86	*
D3	インターネットの事業者や警察に通報する	3.60	3.60	
D2	「ケイ」が傷つかないように配慮して「ケイ」に話す	3.65	3.49	*
D2	「ケイ」に書き込みがあったことを伝えて、なぐさめる	3.56	3.30	*
E	「ケイ」ではない友だちに、誰が書き込んだかを聞いてみる	3.19	3.19	
E	書き込んだ人を見つけるために、情報収集をする	3.40	3.09	*
C2	どうして良いか分からないので、何もしない	2.32	2.61	*
C2	自分では何もできないので、何もしない	2.16	2.53	*
C1	放っておく	1.79	2.18	*
C1	見て見ぬふりをする	1.82	2.06	*
B2	クラスみんなに書き込みがあったことを広める	1.61	1.78	*
B2	そのウェブサイトスマートフォンなどで撮ってみんなに送る	1.51	1.52	
B1	そのウェブサイトを楽しんで見る	1.32	1.48	*
B1	そのウェブサイトで今後何が書き込まれるか楽しみに待つ	1.24	1.40	*
A	「ケイ」に対してもっと悪質な書き込みをする	1.10	1.16	*
A	一緒になって、「ケイ」の悪口を書き込む	1.07	1.15	*

$p < .01$ *

よい／わるいと思うかを 18 項目回答してもらった。内容は教師用の質問紙と同様であった。かなりわるい (1 点), ややわるい (2 点), よくもわるくもない (3 点), ややよい (4 点), かなりよい (5 点) の 5 段階評定であった。

結果

スマートフォンの所有 小学校 5, 6 年生で 29.4%であ

った。一方, 中学校 1, 2 年生で 47.6%であった。

記述統計量 各項目の平均値 (標準偏差) を算出した (Table3)。

小学生と中学生の差 各項目に対して, Mann-Whitney の U 検定を実施した。その結果, ほとんどの項目で有意な差がみられた (Table4)。小学生の方が中学生よりも, 総じて被害擁護者の得点が高く, 反対に中学生の方が小学生よりも加害援助者, 観衆, 傍観者が高かった。

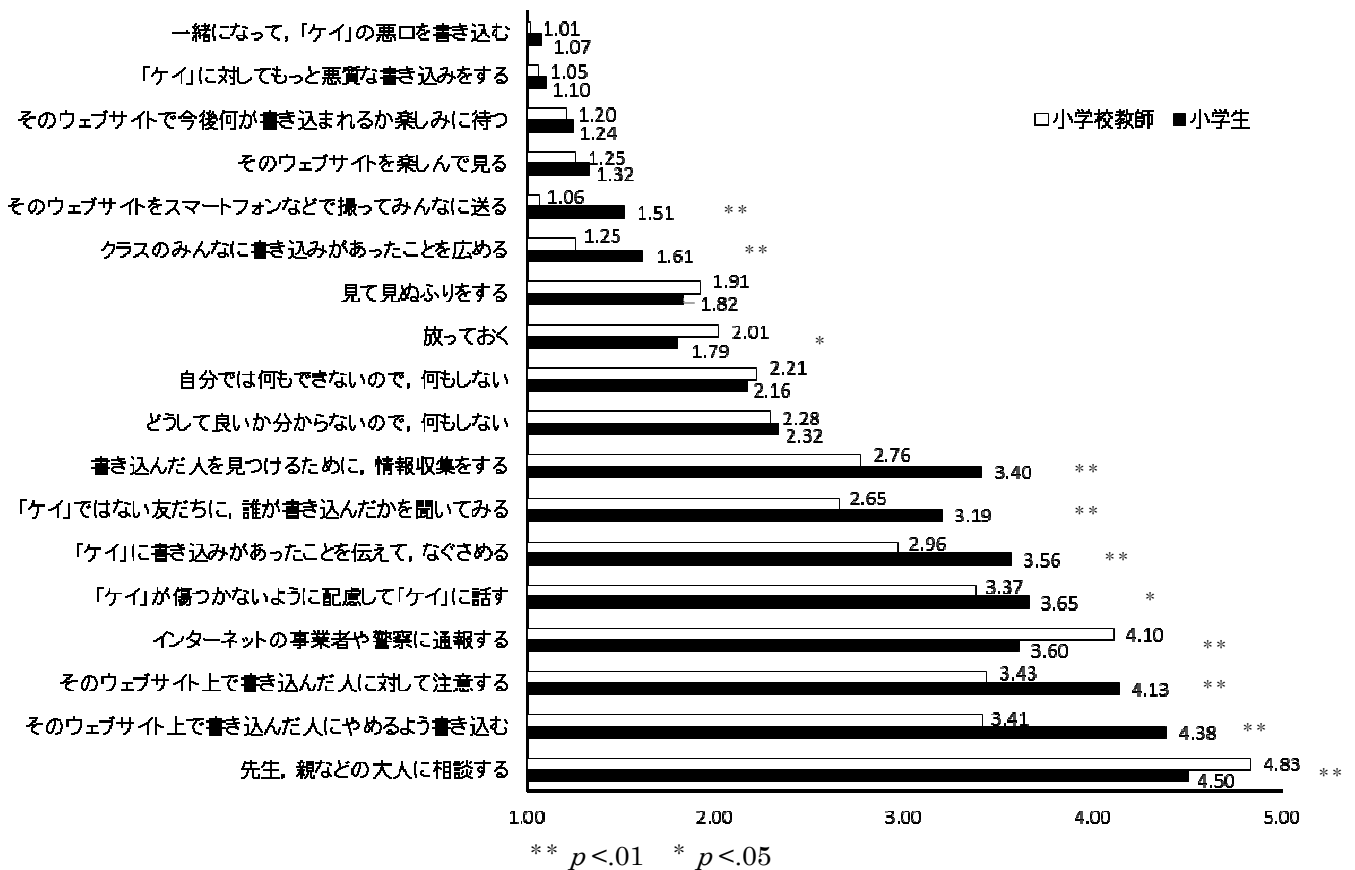


Figure1 小学生と小学校教師の差

性差 各項目に対して、Mann-Whitney の U 検定を実施した。その結果、有意な差がみられた項目は、そのウェブサイトを楽しんで見る ($p < .05$)、「ケイ」が傷つかないように配慮して「ケイ」に話す ($p < .05$)、インターネットの事業者や警察に通報する ($p < .01$)、「ケイ」ではない友だちに、誰が書き込んだかを聞いてみる ($p < .01$)、そのウェブサイト上で書き込んだ人に対して注意する ($p < .01$)、そのウェブサイト上で今後何が書き込まれるか楽しみに待つ ($p < .05$)、「ケイ」に書き込みがあったことを伝えて、なぐさめる ($p < .01$)、そのウェブサイトをスマートフォンなどで撮ってみんなに送る ($p < .05$)、書き込んだ人を見つけるために、情報収集をする ($p < .01$) であった。そのウェブサイト上で書き込んだ人にやめるよう書き込む ($p < .10$) については有意傾向差がみられた。いずれも男子の方が女子よりも高く評価していた。

教師と児童・生徒の差 ここでは、小学生と小学校教師、中学生と中学校教師を対応させて分析を実施した。各項目に対して、Mann-Whitney の U 検定を実施した。その結果、小学生と小学校教師において 11 項目で有意差がみられ (Figure1)、中学生と中学校教師において 16 項目で有意差がみられた (Figure2)。

考察

研究 2 では、小学生および中学生がネットいじめを目

撃した時の対応について、どのように評価するかを明らかにすることが目的であった。各立場になる前の段階の行動である情報探索行動(その他)を除くと、教師同様に、被害擁護者を最も良いと評価しており、続いて傍観者、観衆、加害援助者の順番であった。教師と異なるところは、被害擁護者の中でも加害行為の制止を高く評価していた点であった。つまり、加害者に対して、ネット上で、やめるように言ったり、諭したりすることを良いと考えていたのである。

性差では、観衆、被害擁護者、情報収集に関して男子の方が女子よりも高く評価していた。観衆と被害擁護者の両方が女子よりも高かった結果は、女子と比べて男子が観衆になるか、被害擁護者になるか 2 極化しやすい可能性があると考えられる。また、今回のストーリーはインターネット上への書き込みという直接的ないじめであったが、女子に特有ないじめは、無視や仲間外れといった関係性いじめである (e.g., 岡安・高山, 2000)。したがって、女子の対処行動の価値判断が明瞭に表れなかった可能性も考えられる。

小学生と小学校教師、中学生と中学校教師とでは、多くの項目で有意差がみられ、教師と子どもの評価のズレが大きいことが明らかになった。研究 1 では小学校教師と中学校教師にほとんど差がみられなかったにも関わらず、中学生と中学校教師の有意差の方が小学生と小学校教師よりも多くみられたことは、小学校高学年から中学

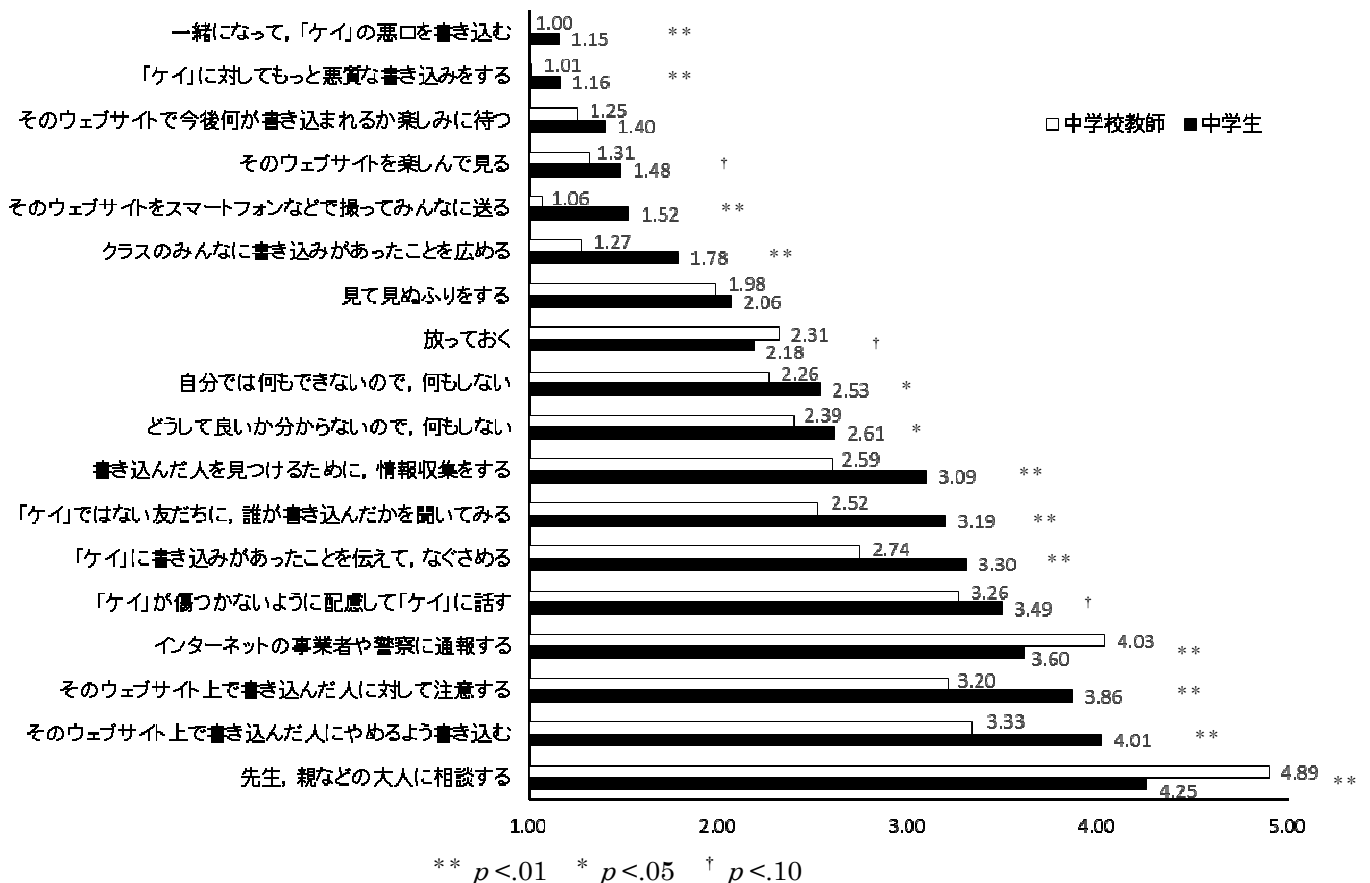


Figure2 中学生と中学校教師の差

生になる間に、ネットいじめの周縁的な立場についての考え方が変化していく傾向にあると考えられる。具体的には、加害援助者、観衆（個人）、傍観者（対処方略なし）について、悪いという認識が弱くなる傾向がみられた。黒川・大西（2009）では、いじめに対する否定的な規範が小学校高学年と比べて中学生が低いことが明らかにされているが、周縁的な立場に関しても同様な結果が得られたと考えられる。

小学生と小学校教師、中学生と中学校教師との間で共通している点として、被害擁護者の立場で評価が異なっていた。「書き込んだ人に対して注意する」といった加害行為の制止や『ケイ』に書き込みがあったことを伝えて、なぐさめる」といった被害者への直接的擁護について、児童・生徒は教師よりも良いと評価していた。一方で、教師は児童・生徒よりも「先生、親などの大人に相談する」といった第三者への援助要請について良いと評価していた。教師の立場からすれば、ネットいじめを発見したら、報告してほしいと考えているが、児童・生徒からすれば、告げ口をするようで、良い対応とは考えられないのかもしれない。また、加害者に対して注意したり、やめるよう働きかけたりすることは、その子自身も加害者から加害行為を受けてしまう可能性があることから、教師はあまり高く評価していなかったと推察できる。一方で、被害者に伝えることに関しては、児童・生徒は高く評価しており、友だちを気遣うことを良いと考えているのに

対し、教師は被害者への影響を考えたためか、伝えることをあまり良くは考えていないようであった。また、クラスの人々に書き込みがあったと広めるような観衆（集団）の立場については、教師の方が小学生や中学生の方よりも悪いと評価していた。メールやLINEの普及によって、操作が簡単で手間がかからず情報交換ができるようになり、情報共有は日常的に行われるようになった。こういったネガティブな情報についても、情報共有することを悪いという認識をあまりもたないのではないかと考えられる。

何かできるにも関わらず、放っておくという傍観者の立場については、小学生や中学生の方が、教師よりも悪いと評価していた。ネットいじめに関与するくらいならば、放っておいた方がまだましなのではないかと考える教師も一定数いるのではないかと考えられる。

ネットいじめ目撃者の対処行動チェックリストの作成

研究1, 2を踏まえ、ネットいじめ目撃者の対処行動チェックリストの作成を行う。チェックリスト作成の目的としては、ネットいじめを目撃した児童・生徒が1) 不適切な行動が何かを理解しているかをチェックできること、2) 教師が最も良いと考える行動をとれることをチェックすることである。

まず、小学生と中学生の間で多くの項目で差がみられ

たことにより、小学校高学年用と中学生用の2種類作成することにした。次に、教師と児童・生徒との間で評定のズレがなかった項目に関しては、本研究では教育的課題ではないと位置づけ、扱わないことにした。続いて、教師の評定が良くも悪くもない項目については使用しないことにした。つまり、3より有意に高い項目と、2.5より有意に低い項目を使用した。本来であれば、低得点についても3より有意に低い項目を用いるべきであるが、今回の調査では、全般的に低く評定されており、3より低いとすると、項目数が多く残ってしまうことから、2.5とした。最後に、問いの形式としては、1) 不適切な行動に関しては、該当する全てを選択する形式に、2) 教師が最も良いと考える行動については、1つだけ選択する形式にした(Appendix3, Appendix4)。

ネットいじめ目撃者の対処行動チェックリストの正答は、小学校高学年版の問題1で3, 6, 8, 問題2で7となっている。中学生版では問題1で1, 3, 5, 7, 8, 9, 11, 12, 問題2で10となっている。これらの正答については、本研究で得られた教師による評定が基準になっている。したがって、この正答は唯一無二ではない。今後、警察、インターネット会社、法律家など、異なる領域の専門家によって妥当であるかを判断してもらう必要があるだろう。

本チェックリストは、児童・生徒がネットいじめを目撃した後の、対処行動について適切な判断ができるかを確認するためのものである。また、このチェックリストを題材にして、学級活動などで議論を行わせるなど、児童・生徒同士がネットいじめ目撃時の対応について考える活動を行うことも可能である。しかし、他方で、間違ったら、正答を教えるといった知識の伝達のみで終始した使用がされないことを期待したい。中学生と中学校教師のズレが、小学生と小学校教師のズレよりも大きかったことは、知識の獲得以外の要因がこの問題には関係していることを示唆しており、何が正しいかを教えるだけでは、ほとんど効果をもたないのではないかと推察される。

謝辞

ネットいじめ目撃者の対処行動チェックリスト(Appendix3, Appendix4)に使用した挿絵は、愛知教育大学教育学部初等教育教員養成課程美術選修 田上万豊氏による作品である。感謝申し上げます。

引用文献

Bonanno, R. A. & Hymel, S. (2013). Cyber bullying and internalizing difficulties: Above and beyond the impact of traditional forms of bullying. *Journal of Youth Adolescence*, **42**, 685-697.

藤桂・吉田富二雄 (2014). ネットいじめ被害者における相談行動の抑制一脅威認知の観点から一 教育心理学研究, **62**, 50-63.

Hemphill, S. A., Kotevski, A., Tollit, M., Smith, R., Herrenkohl, T. I., Toumbourou, J. W., & Catalano,

R. F. (2012). Longitudinal predictors of cyber and traditional bullying perpetration in Australian secondary school students. *Journal of Adolescent Health*, **51**, 59-65.

黒川雅幸 (2010a). 中学生の電子いじめ加害行動に関する研究 福岡教育大学紀要第4分冊(教職科編), **59**, 11-21.

黒川雅幸 (2010b). いじめ被害とストレス反応, 仲間関係, 学校適応感との関連—電子いじめ被害も含めた検討— カウンセリング研究, **43**, 171-181.

黒川雅幸 (印刷中). 児童・生徒のネットいじめにおける“witness”の検討 発達研究, **30**.

黒川雅幸・大西彩子 (2009). 準拠集団規範がいじめ加害傾向に及ぼす影響—準拠枠としての仲間集団と学級集団— 福岡教育大学紀要第4分冊(教職科編), **58**, 49-59.

Li, Q. (2006). Cyberbullying in schools: A research of gender differences. *School Psychology International*, **27**, 157-170.

Mishan, F., Khoury-Kassabri, M., Gadalla, T., & Daciuk, J. (2012). Risk factors for involvement in cyber bullying: Victims, bullies and bully-victims. *Children and Youth Services Review*, **34**, 63-70.

文部科学省 (2014). 平成25年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査 2014年10月16日 <http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/10/_icsFiles/afieldfile/2014/10/16/1351936_01_1.pdf> (2015年10月28日)

森田洋司・清永賢二 (1986). いじめ—教室の病— 金子書房

岡安孝弘・高山巖 (2000). 中学生におけるいじめ被害者および加害者の心理的ストレス 教育心理学研究, **48**, 410-421.

Rigby, K., & Smith, P. K. (2011). Is school bullying really on the rise? *Social Psychology Education*, **14**, 441-455.

Salmivalli, C., Lagerspetz, K., Björkqvist, K., Österman, K., & Kaukiainen, A. (1996). Bullying as a group process: Participant roles and their relations to social status within the group. *Aggressive Behavior*, **22**, 1-15.

Slonje, R., Smith, P. K., & Frisén, A. (2012). Processes of cyberbullying, and feelings of remorse by bullies: A pilot study. *European Journal of Developmental Psychology*, **9**, 244-259.

Sontag, L. M., Clemans, K. H., Graber, J. A., & Lyndon, S. T. (2011). Traditional and cyber aggressors and victims: A comparison of psychosocial characteristics. *Journal of Youth and Adolescence*, **40**, 392-404.

内海しよか (2010). 中学生のネットいじめ, いじめられ体験—親の統制に対する子どもの認知, および関係性攻撃との関連— 教育心理学研究, **58**, 12-22.

Development of a checklist for witnesses to cope with cyber bullying

Masayuki KUROKAWA (Faculty of Education, Aichi University of Education)

This study aimed to develop a checklist for witnesses to cope with cyber bullying. In the first phase of the study, 80 elementary school teachers and 94 junior high school teachers responded to a questionnaire. Participants were asked to rank the coping behavior of witnesses to cyber bullying according to the five-grade evaluation system. Teachers rated defender of the victim highest, followed in descending order by bystander, reinforcer of the bully, and assistant of the bully. In addition, teachers rated help-seeking behavior the highest for defender of the victim. In phase two, participants were 424 fifth- and sixth-year elementary school students and 1,092 first- and second-year junior high school students. The students also rated defender of the victim the highest; however, they rated warning the bully as highest for defender of the victim. A comparison of teacher and student ratings highlighted a range of significantly different perspectives about how witnesses should cope with cyber bullying. Junior high school students' ratings differed more significantly from teachers' ratings than those of elementary school students. On the basis of these findings, individual checklists were developed for elementary and junior high school students.

Keywords : cyber bullying, witnesses, teachers, students

Appendix1 研究1で提示したストーリー（中学校教師版）

「ユウ」と「ケイ」は、中学2年生で同じクラスです。2人は学校で話をすることはありませんが、親友というほどの仲良しではありません。「ユウ」が、スマートフォンを使って、インターネットのウェブサイトを見ていたら、「ケイ」に対する書き込みを偶然見つけました。おそらく、同じ学校の誰かが書き込んだものです。書き込み内容は、「ケイ」への悪口や誹謗・中傷といった悪質なものでした。
※小学校教師版は下線部が小学校6年生に設定してあった。

Appendix2 研究2で提示したストーリー

「ユウ」と「ケイ」は、同じクラスです。2人は学校で話をすることはありませんが、親友というほどの仲良しではありません。「ユウ」が、スマートフォンを使って、インターネットのウェブサイトを見ていたら、「ケイ」に対する書き込みを偶然見つけました。おそらく、同じ学校の誰かが書き込んだものです。書き込み内容は、「ケイ」への悪口や誹謗・中傷といった悪質なものでした。

Appendix3 ネットいじめ目撃者の対処行動チェックリスト（小学校高学年版）

● 次の話を read したあと、質問に答えましょう。

「ユウ」と「ケイ」は、同じクラスです。2人は学校で話をすることはありますが、親友というほどの仲良しではありません。「ユウ」が、スマートフォンを使って、インターネットのウェブサイトを見ていたら、「ケイ」に対する書き込みを偶然見つけました。おそらく、同じ学校の誰かが書き込んだものです。書き込み内容は、「ケイ」への悪口や誹謗・中傷といった悪質なものでした。

質問1 「ユウ」がこのあとで、やってはいけないことは何でしょう？下にある「ユウの行動」のなかから 3つ えらび、□の中に番号をかきましょう。

--	--	--

質問2 「ユウ」がこのあとにすることで、もっともよいことは何でしょう？下にある「ユウの行動」のなかから 1つ えらび、□の中に番号をかきましょう。

--

「ユウの行動」

- 1 そのウェブサイト上で書き込んだ人にやめるよう書き込む
- 2 「ケイ」が傷つかないように配慮して「ケイ」に話す
- 3 クラスのみんなに書き込みがあったことを広める
- 4 インターネットの事業者や警察に通報する
- 5 そのウェブサイト上で書き込んだ人に対して注意する
- 6 そのウェブサイトスマートフォンなどで撮ってみんなに送る
- 7 先生、親などの大人に相談する
- 8 放っておく

Appendix4 ネットいじめ目撃者の対処行動チェックリスト（中学生版）

● 次の話を read したあと、質問に答えましょう。

「ユウ」と「ケイ」は、同じクラスです。2人は学校で話をすることはありますが、親友というほどの仲良しではありません。「ユウ」が、スマートフォンを使って、インターネットのウェブサイトを見ていたら、「ケイ」に対する書き込みを偶然見つけました。おそらく、同じ学校の誰かが書き込んだものです。書き込み内容は、「ケイ」への悪口や誹謗・中傷といった悪質なものでした。

質問1 「ユウ」がこのあとで、やってはいけないことは何でしょう？下にある「ユウの行動」のなかから 8つ えらび、□の中に番号をかきましょう。

□	□	□	□	□	□	□	□
---	---	---	---	---	---	---	---

質問2 「ユウ」がこのあとにすることで、もっともよいことは何でしょう？下にある「ユウの行動」のなかから 1つ えらび、□の中に番号をかきましょう。

□

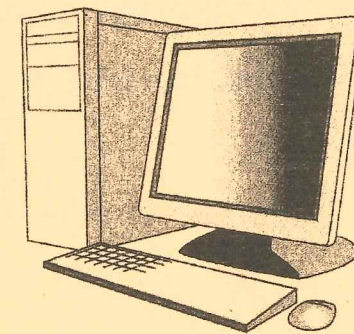
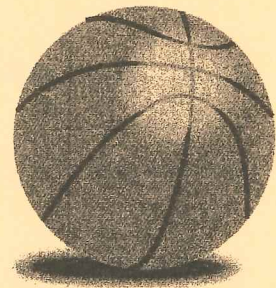
「ユウの行動」

- 1 一緒になって、「ケイ」の悪口を書き込む
- 2 そのウェブサイト上で書き込んだ人にやめるよう書き込む
- 3 そのウェブサイトを楽しんで見る
- 4 「ケイ」が傷つかないように配慮して「ケイ」に話す
- 5 クラスのみんなに書き込みがあったことを広める
- 6 インターネットの事業者や警察に通報する
- 7 どうして良いか分からないので、何もしない
- 8 「ケイ」に対してもっと悪質な書き込みをする
- 9 そのウェブサイトスマートフォンなどで撮ってみんなに送る
- 10 先生、親などの大人に相談する
- 11 放っておく
- 12 自分では何もできないので、何もしない

あなたがネットいじめ^{もく}を目げきしたら？

ネットいじめ^{たいおう}対応チェックリスト

(小学校高学年用)




制作：愛知教育大学 教育学部 講師 黒川 雅幸

絵：愛知教育大学 教育学部 初等教育教員養成課程 美術選修 田上 万豊

安心ネットづくり促進協議会「2014年度研究支援（助成）」を受けて制作された。

学年	組	出席番号	性別	名前

つぎ はなし よ しつもん こた
●次の話を read したら、質問に答えましょう。



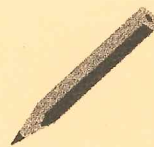
「ユウ」と「ケイ」は、同じクラスです。
2人は学校で話をすることはありますが、
親友というほどの仲よしではありません。
「ユウ」が、スマートフォンを使って、
インターネットのウェブサイトを見ていた
ら、「ケイ」に対する書き込みを偶然見つけ
ました。おそらく、同じ学校の誰かが書き
込んだものです。書き込み内容は、「ケイ」
への悪口や誹謗・中傷といった悪質な
ものでした。

しつもん
質問1 「ユウ」がこのあとで、やってはいけないことは何でしょう？

みぎ
右のページにある「ユウの行動」のなかから3つえらび、

なか ばんごう
□の中に番号をかきましょう。

--	--	--

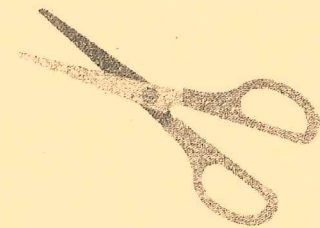
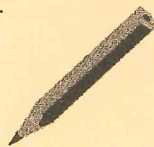


しつもん
質問2 「ユウ」がこのあとにすることで、もっともよいことは何でしょう？

みぎ
右のページにある「ユウの行動」のなかから1つえらび、□の中に

ばんごう
番号をかきましょう。

--



「ユウの行動」

- 1 そのウェブサイト上で書き込んだ人にやめるよう書き込む
- 2 「ケイ」が傷つかないように配慮して「ケイ」に話す
- 3 クラスのみんなに書き込みがあったことを広める
- 4 インターネットの事業者や警察に通報する
- 5 そのウェブサイト上で書き込んだ人に対して注意する
- 6 そのウェブサイトをスマートフォンなどで撮ってみんなに送る
- 7 先生、親などの大人に相談する
- 8 放っておく